

# 令和5年度 学校自己評価システムシート（秋草学園高等学校）

目指す学校像	「礼節」、「勤勉」、「協調」の精神を涵養し、「愛され信頼される女性」を育成する学校。 生徒一人ひとりを大切にし、生徒の「やってみたい」を「やってみる」にする学校
--------	---

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>挨拶の励行、道徳心の育成を通じ、建学の理念の具現化を図る。</li> <li>学習の習慣化・授業の充実を通じ主体的な学びを身に付けさせ、進路希望の実現を図る。</li> <li>生徒募集・広報活動に全員体制で取り組み、入学者を増やす。</li> <li>教職員の意識改革・学校改革を推進し、よりよい秋草学園の創造を図る。</li> </ol>
------	--

達成度	A	ほぼ達成（8割以上）
	B	概ね達成（6割以上）
	C	変化の兆し（4割以上）
	D	不十分（4割未満）

学校関係者	4人
事務局（教職員）	4人

学校自己評価							
年度目標			令和5年度評価（3月31日現在）				
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	1 挨拶は、本校の教育方針の一つである「礼節の心」の育成に関わるものであるが、日々の高校生活において更に定着させる必要がある。 2 時間を守る、清掃活動を通じて校内美化を徹底する、授業に集中する等により、「勤勉の精神」を更に高める。 3 日頃の各クラスでの活動、部活動、学校行事、生徒会行事を通じて、「協調」して行動することの大切さを身につけさせる。	1 様々な場面で心のこもった挨拶ができていないか。言葉だけでなく具現化できているか。 2 ①チャイムと共に授業が始まれているか。 ②校内の清掃がきちんと行われているか。 ③授業規律は守られているか。 3 各クラスで生徒が協力して日頃のホームルームの活動や行事に取り組んでいるか。	校長講話、担任の講話をはじめ日頃の教育活動で礼節・勤勉・協調の精神を常に念頭に置いた指導を行う。 1 ①毎朝、教職員や生徒が校門に立ち、心を込めた挨拶をする。 ②授業や集会などの始めと終わりにしっかりと挨拶をさせる。 ③伝統的な行事を通じて育成する。 2 ①校舎内巡回担当が確認する。 ②各ホームルームで清掃指導を徹底すると共に清掃箇所の監督教員がしっかり指導する。 ③授業担当、担任が相互に意思疎通をはかり、授業規律を確立する。 3 部活動、各行事の指導で常に組織を意識した指導を行う。	1 ①教職員自らが率先垂範で挨拶ができていないか。 ②教員が毎朝校門に立ち、生徒への挨拶指導が実施できたか。生徒の学校生活での挨拶が定着したか。 ③伝統的な行事を通じて建学の理念を学ばせる事ができたか。 2 ①HR・授業でのチャイム着席が徹底できているか。 ②各箇所清掃に熱心に取り組んでいるか。廊下等にゴミが落ちていないか。 ③授業担当と担任の意思疎通が図れているか。 3 ①綿密な活動計画の下、運営されているか。 ②顧問と担任間の「報連相」が行われているか。 ③各行事に対して生徒の主体性を育むことができたか。	1 ①教職員が率先して挨拶ができていないか。 ②生徒への挨拶指導は計画に従ってできていた。生徒の挨拶は定着してきているが個人差がある。 ③針供養や百人一首大会を通して、伝統と建学の理念を学ぶことができた。 2 ①チャイム着席はほぼできている。 ②清掃は前向きに取り組んでいるが、階段や廊下にゴミが残っていることがある。 ③授業担当と担任間で必要に応じて細かく連絡を取り合っている。 3 ①ルールや活動計画に従って運営されていない部分がある。 ②顧問と担任間で必要に応じて連絡を取っている。 ③生徒会役員選挙で立候補者が過去最高になった。各行事において生徒は積極的に参加していた。	B	1 ①相手を重んじる気持ちで丁寧な挨拶をさらに心がける。 ②自ら進んで挨拶ができるようにする。 2 ①教員が率先垂範していく。 ②場所によってはより丁寧な指導が必要である。生徒自ら落ちているゴミを拾う習慣づくりも必要である。 ③定期的に授業担当と担任が連絡を合う等によりコミュニケーションを大切にしていく。 3 ①部活動は平日1日の休み、休日の活動時間を守る等、ルールや活動計画に沿って実施していく。 ②生徒情報の共有を引き続き行う。 ③生徒会役員と各種委員会委員長とが連携をとり行事に取り組むシステムを構築する。
2	1 基礎学力の定着が十分でない生徒が少なくない現状があり改善の必要がある。 2 新学習指導要領に基づく新教育課程の開始に伴い、授業研究、教材研究の充実が一層求められている。観点別評価の円滑な実施が求められている。 3 生徒の主体的な学びを促すためのA L型授業の推進と教材の工夫、ICTの活用が必要である。	1 ベネッセの基礎力診断テスト、スタディサポート等の結果において基礎力が定着し学力が向上しているか。 2 生徒の実態に合った学習指導計画が立てられたか。各教科で授業研究・教材研究が進められたか。観点別評価が実施出来たか。 3 A L型授業の実践がなされているか。そのための研修、教材の準備がなされているか。	1 基礎力診断テストやスタディサポートの結果に基づいた教員の研修会を実施し、その後の指導に活用する。 2 ①生徒による授業評価を活用する。 ②研修会の実施により、教員の実践力を高める。 3 ①授業研究旬間、研修会等を通して授業力を向上させる。 ②ICTの活用をはかる。	1 ①過去からのデータの推移比較の結果はどうか。 ②研修会は実施できたか。 2 ①生徒の授業評価の結果はどうか。 ②研修会を実施し、研修会の成果をその後の教育活動の充実に活用できたか。観点別評価は円滑に進められたか。 3 ①生徒による授業評価や教員間の授業研究・教科会が活用できているか。 ②授業でのICTの活用が進んだか。	1 ①データ分析の結果、1学期に地道な努力を重ねた生徒は2学期に成績の伸長がみられた。クラスでも経年比較で伸びが目立った。 ②各種研修会を実施した。 ③授業評価結果は各自で確認済である。 ④授業研究月間を実施した。観点別評価は概ね順調である。 3 ①研究月間の内容検討は各教科による。 ②ICT活用は概ね良好である。	B	1 ①分析によって生徒の状況を客観的に把握することは必要である。引き続き検討を行う。 ②学校の教育力の向上に向けて各種研修会を引き続き実施する。 2 ②研修会をその後にどう活用するかという点の検討と改善が必要である。 3 ①授業評価、相互授業見学を授業改善に活かしていく。 ②ICTは慣れの段階からさらに効果的かつ円滑な活用のレベルに達することができるよう各自研修を積んでいく。
3	1 時機をとらえた中学校訪問・塾訪問を行うとともにホームページやSNS等を活用した効果的な学校紹介が求められている。 2 本校の認知度を上げ、オープンスクール・学校説明会・入試相談会等への参加者を増やすことで安定した募集定員(260人)の確保が求められている。 3 進路実績を向上させて中学生・保護者及び中学校・塾関係者の期待と信頼を高め、生徒募集の増加を図る必要がある。	1 本校のホームページの閲覧回数が増えたか。募集ツールの評価が高いか。 2 オープンスクールや学校説明会に参加する中学生が増えたか。 3 ①進路決定率100%を実現できたか。 ②大学合格実績が向上したか、難関大学進学者が増加したか。 ③看護医療系の進学希望が実現したか。	1 ①TikTokの活用等動画を有効に利用しホームページの工夫・改善を図る。 ②各種アンケートを活用し、募集ツールの質を高める。 2 出前授業、上級学校訪問の積極的な受け入れ等により中学校との連携を強化する。 3 ①『進路の手引』や『進路冊子』の活用や進路ガイダンスの充実を図る。進学に向けた予備校講座、進学講座、スタディサプリ等の活用を推進する。 ②指定校枠の増加を図る。各大学と密な連携を行う。 ③各種セミナー、ガイダンス、講座等を充実させる。	1 SNSの広報での活用ができたか。閲覧回数は増えているか。 2 本校受験の出願者が募集定員を超え、単願260人、併願590人以上に、入学者が300人以上になったか。 3 ①国公立3人、早慶上理3人、GMARCH10人、成成国武明学15人、日東駒専20人の合格者が出せたか。 ②就職決定率100%を達成できたか。 ③看護医療系進学希望を100%実現できたか。	1 TikTokの視聴を含め、ホームページの閲覧が伸びた。 2 出願者が単願226人、併願者595人。これは前年度比 単願103.6%、併願123.7%（県内私学第3位）にあたる。その後、誘導等により2月13日現在、単願236人、併願586人である。併願者の歩留り次第で、目標の入学者300人が見えてくる。 3 ①集計中 ②就職決定率は100%に達した。 ③看護医療系への指導も適切に行われ、生徒の希望進路は実現した。	A	1 新ホームページの運用を軌道に乗せることに注力しなければならない。 2 配送料金の値上げに伴い、チラシ等による中学生へのアプローチにも工夫が必要になる。中学校訪問・塾訪問と併せて検討を要する。 3 ①一般選抜の結果では、メンタル面の弱さが考えられた。今後は教科指導に加えて、メンタル面でのサポート体制を強化することが不可欠である。 ③看護医療系ではハイレベル校の推薦枠が残っており、今後その枠を最大限活用することが求められる。
4	1 大学入試改革、新学習指導要領の実施、生徒指導要領の改訂に対応した教員の研修が必要である。 2 授業力向上、防災・不審者対応などの危機管理対応等の研修の充実が必要である。 3 働き方改革に対応した業務の見直し、改善が喫緊の課題となっている。	1 校内外での研修に教員が参加しているか。研修の成果が教育活動に反映されているか。 2 学校運営や教育力を高めるための研修が実施されているか。必要な情報が共有されているか。 3 各分掌で業務の見直し、改善への取組が行われているか。教職員の在籍時間の縮減がはかれたか。	1 校内研修を実施すると共に校外の研修参加を奨励する。教職員一人一人が学校改革に向けて主体的に取り組む姿勢を醸成する。 2 情報共有を図ると共に、分掌・学年・個人からの学校改革についての意見を積極的に取り入れる。関係分掌を中心に研修会を実施する。 3 各分掌・学年で担当業務を見直し、不要なものを洗い出し改善を進め業務を効率的に行う。	1 ①大学入試改革、新学習指導要領への理解が進み、取組が円滑に進んでいるか。 2 ①部長や主任がそれぞれの関係する事案を把握しており、管理職と必要な連携がとれているか。 ②各教職員が、組織の一員として職務上の役割を主体的に果たしているか。 3 各分掌・学年での業務の見直し、不要業務の洗い出しが行われ業務の削減がなされたか。教職員の在籍時間の縮減が行われたか。	1 ①新学習指導要領への理解、大学入試改革対応は進んできている。 2 ①部長、科長、主任で連携することができている。 ②部員とも連携を取り、協力して業務にあたることができている。 3 業務の見直しはまだ十分できていない。在籍時間は一部を除きそれほど多くない。	B	1 ①主体的・対話的な授業展開が徐々に取り入れられている。さらに生徒たちが主となり、教員はファシリテーターとなる研修を積るとよい。 2 ①引き続き関係各箇所の連携を図る。 ②研修会への参加、関係書籍等からの学びにより個人が教員としての資質を高める必要がある。 3 不要業務の洗い出しによる業務量の削減と共に業務の分担を見直し、仕事量の平準化と若手教員の育成を図る。

学校関係者評価	
実施日	令和6年3月2日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<p>生徒会役員選挙における立候補者が過去最高であったことは、スクール・ポリシーを具現化していく教職員の指導の成果であり、また、多くの生徒が主体的に学校生活にかかわっていく姿勢を表していると考えられるのではないかと感じている。このような状況を一時的なものではなく継続して欲しい。達成度はAでよいと思う。</p> <p>登校時の校門での生徒の様子を通勤の途中に見ているが、挨拶はきちんとできていると思うので達成度はAでよいと思う。</p>	
<p>ICT機器の活用は在校生や卒業生からの話を聞いても十分にできていると感じる。生徒にとって成績の向上も重要であるが、入学時の期待値に対して卒業時の満足度がどの程度であったかも重要だと思う。達成状況が概ね良好であるにもかかわらず達成度がBなのは教職員の向上心の表れであると理解している。</p>	
<p>入学者の増加は嬉しいが、中途での転退学者が少なくないのが気になる。対策を講じてほしい。生徒募集の広報にTikTokなどのSNS活用の戦略が功を奏しているように感じる。一方でこうしたものは、流行・廃れがはやいので状況の見極めが重要である。本校の良さをもっと多くの中学生やその保護者に知ってもらいように本校の認知度を高めてほしい。</p>	
<p>働き方改革について、多忙な業務の中での意識改革はたいへんなことであるが、教職員が丸手となって同じ方向を向いて進んでいくことを期待している。</p> <p>多忙さが一部の教職員に集中しないように仕事を分散できる方策を模索していただきたい。より良い学校になっていると感じているので、今後もこの流れを継続してほしい。</p>	

